熊谷市
記者クラブ取材情報

令和2年10月29日発表
担当課:企画課

タイトル

【スマートシティ】隊列走行実証実験を実施します

1．日時

令和　２年１１月２１日（土）午後　１時００分　～　午後４時００分
　　１１月２２日（日）午前１０時００分　～　午後４時００分

2．場所

熊谷スポーツ文化公園陸上競技場外周路（熊谷市上川上300番地）

3．事業概要

（目的）
　熊谷駅から熊谷スポーツ文化公園間のアクセスを改善し、滞在時間の質を高め地域の魅力向上、経済の活性化、持続可能な公共交通体系の構築を目指しています。
（内容）
　熊谷駅から熊谷スポーツ文化公園間において将来的な自動運転バス隊列走行の導入を図るため、令和２年度は熊谷スポーツ文化公園内にて乗用車型での実証実験を行います。
（効果）
　令和２年度の実証実験を踏まえて、次年度以降の計画につなげていきます。
　バス隊列走行の導入により同公園でのイベント開催時等の交通需要増大時のアクセス環境を向上させつつ、平常時には、需要に見合った供給がなされる、持続可能な公共交通に寄与します。
（経緯）
　本取組は、本市が推進している【スマートシティ】のモビリティ分野の一環として実施するものです。
　なお、本市が参画している熊谷スマートシティ推進協議会の提案事業が国土交通省のスマートシティ「令和２年度事業化促進プロジェクト」に採択されています。

4．特徴やPRポイント

バス隊列走行が実装されれば、全国初のケースとなります。
旅客需要の増減が大きな地域等、他の地域にも波及が見込まれる取組です。

5．その他

実証実験実施主体者
　熊谷市、熊谷スマートシティ推進協議会、群馬大学　次世代モビリティ社会実装研究センター、日本モビリティ㈱

　＊この事業は埼玉県ふるさと創造資金の支援を受けて実施します。

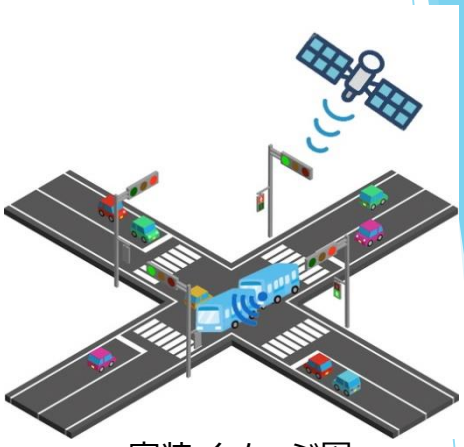
※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）

担当者　総合政策部企画課　竹村、持田、大澤
連絡先　048-524-1111　内線528、228

隊列走行&自動運転技術実証実験について



自動運転システム搭載車両



実装イメージ図

項　目	概　　要
内　容	先頭の有人走行車に自動走行車両を追従走行させ、２台を連ねる「隊列走行」の実証実験を行う。
日　時	１１月２１日（土）１３時からメディア向け説明・試乗 １４時から関係者向け試乗 １１月２２日（日）１０時から関係者及び一般向け試乗
主体者	熊谷市、熊谷スマートシティ推進協議会、 群馬大学　次世代モビリティ社会実装研究センター、 日本モビリティ㈱
会　場	熊谷スポーツ文化公園（熊谷市上川上300番地）
区　間	公園内の陸上競技場外周路
環　境	約１,４００ｍを走行
速　度	２０Km/h以下（公園内のため）
車　両	群馬大学所有の自動運転システム搭載車（２台）
定　員	４名/台
安　全	車内に保安要員を乗車させるほか、走行路には警備員を適宜配置する。

実証実験の会場及び走行ルート

熊谷スポーツ文化公園内陸上競技場外周路において実施します。



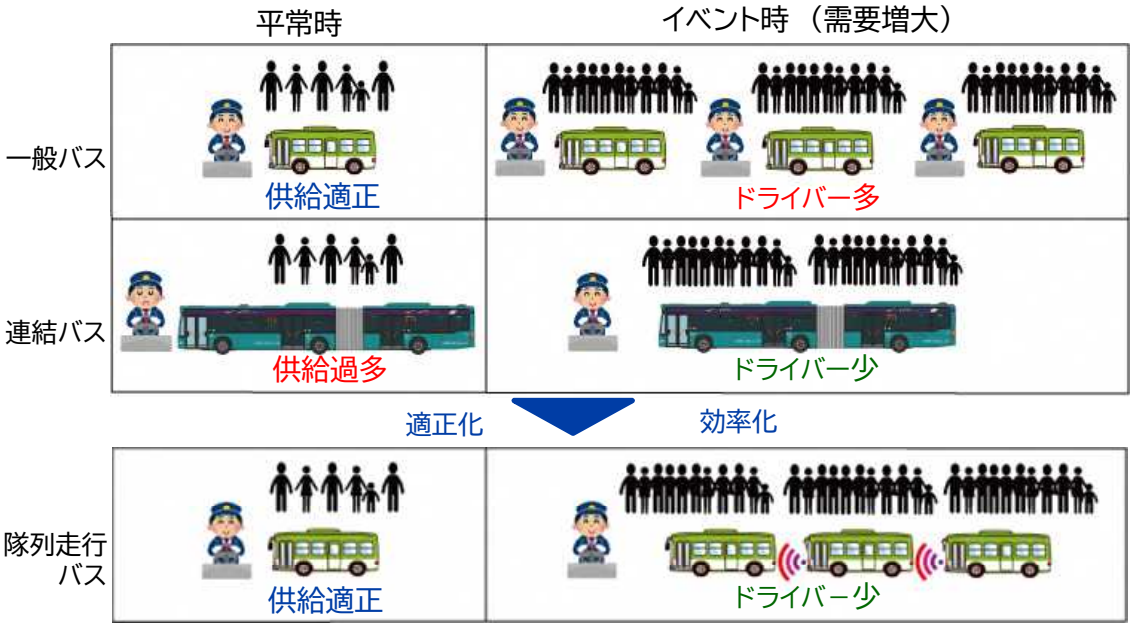
※お車でお越しの場合は、Ｐ６駐車場をご利用ください。
※JR熊谷駅から「熊谷ドーム行き」の路線バスもご利用いただけます。
※マスメディア関係の方は、１３時までに「本部」へお集まり願います。



バス隊列走行について

＜隊列走行のあらまし＞

本隊列走行は、車両を複数台連ねて走行することであり、自動運転技術を組み合わせることにより、少数のドライバーでより多くの旅客輸送を可能とする効率的なシステムの構築を目指します。
本システムは連結と非連結の切り替えが容易であることから、単独のバス車両で走行することも可能となります。
本システム導入により、需要増大時と平常時の需要に見合った配車や、複数路線間で車両やドライバーを融通することが可能となり、効率性や持続可能性が高まります。



- **一般のバスは、イベント時等の需要増大時に適切な台数のバスを調達するのと同時に、台数分の運転手の調達を必要とし、平常時とイベント時の運転手の確保数の相違に課題があります。**
- **連結バスは、イベント時において高い輸送能力を有するものの、平常時においては供給過多の状態となってしまいます。**
  また、導入・維持費用が高価であり、運転手に通常以上の運転能力を求め、かつ、連結バスの運行を可能とするようなインフラ整備が別途必要になってしまいます。
- **隊列走行バスは、平常時・イベント時にそれぞれ相応の台数のバスを調達でき、かつ、運転手の調達を最小限とすることができるため、安定した運転手の確保が図れ、また、イベント時においても状況に応じた台数をもって運行することができます。**